

故事「鼎の輕重を問う」

【原文】

是歲滅_レ庸。六年伐_レ宋、獲_二五百乘_一。八年、伐_二陸渾戎_一、遂至_レ洛、觀_二兵于周郊_一。

周定王、使_二王孫滿勞_レ楚王_一。楚王問_二鼎小大輕重_一。

對曰、在_レ德、不_レ在_レ鼎。莊王曰、子無_レ阻_二九鼎_一。

楚國折鉤之喙、足_二以爲_二九鼎_一。

王孫滿曰、嗚呼、君王其忘_レ之乎。昔_二虞・夏之盛_一、遠方皆至。

貢_二金九牧_一、鑄_レ鼎象_レ物、百物而爲_二之備_一、使_二民知_二神茲_一。

桀有_レ亂德。鼎遷_二于殷_一。載祀六百、殷紂暴虐、鼎遷_二于周_一。

德之休明、雖_レ小必重。其茲回昏亂、雖_レ大必輕。

昔成王、定_二鼎于郊廓_一。卜_レ世三十、卜_レ年七百。

天所_レ命也。周德雖_レ衰、天命未_レ改。鼎之經重未_レ可_レ問也。

楚王乃歸。

【読み下し文】

是の歳、庸を滅ぼす。六年、宋を伐ち、五百乗を獲たり。八年、陸渾の戎を伐ち、遂に洛に至り、兵を周の郊に觀す。

周の定王、王孫滿をして楚王を勞はしむ。楚王、鼎の小大經重を問ふ。

對へて曰く、徳に在り、鼎に在らず、と。

莊王曰く、子、九鼎を阻む無かれ。楚國の折鉤の喙、以て九鼎を爲るに足る、と。

王孫滿曰く、嗚呼、君王其れ之を忘れたるか。昔、虞・夏の盛なるや、遠方皆至れり。

金を九牧に貢せしめ、鼎を鑄て物に象り、百物にして之が備を爲し、民をして神姦を知らしめぎ。桀、亂徳有り。鼎、殷に遷りぬ。載祀六百、殷紂暴虐にして、鼎、周に遷りぬ。

徳の休明なるや、小なりと雖も必ず重し。其の姦回昏亂なるや、大なりと雖も必ず輕し。

昔成王、鼎を郊廓に定む。世を卜すること三十、年を卜すること七百なりき。

天の命ずる所なり。周の徳、衰へたりと雖も、天命未だ改まらず。鼎の經重は、未だ問ふ可からざるなり、と。

楚王乃ち歸る。

【通釈】

この年に（楚王は）、湖北の小国、庸を滅ぼした。六年には、宋を伐ち、兵車五百乗を獲得した。八年には、洛水東辺の陸渾の戎を伐ち、ついに洛陽に至り、周の国都の郊外で観兵式をやつて、大いに武威を周に示した。周の定王は、大夫の王孫滿を派遣して、楚王を勞らつた。楚王は、周の王室に伝える九鼎の大小軽重を問うた。王孫滿は答えて言った。「王位は徳にあつて、鼎にあるものではありません」と。莊王が言った。「そなたは、歴世の至宝とする九鼎が周にあるからとて、それを頼みにしてはならない。楚国は鋒先の折れ曲がつた端くれを集めても、九鼎を造ることができなのだ」と。王孫滿が答えて言った。「ああ、君王は肝心なことをお忘れになられましたか。むかし、虞舜や夏禹の盛代には、遠方の諸国がみな徳に服し来つたので、牧民官に命じて貴金属を貢獻させて鼎を鑄造し、それに百物の形象を彫りつけ、百物への防備をなさしめ、人民に神異なもの、姦怪なものを知らしめて、安心して生活できるようにしたのです。夏の桀王が徳を乱したことで、九鼎は殷の王室に遷り、それから六百年を経て、殷の紂王が暴虐だったため、九鼎は周王朝に遷つたのであります。天子の徳が美しく明らかに輝いているときは、九鼎は小さくとも必ず重く、どこにも遷すことはできません。天子の徳が邪で昏いときは、鼎は大きくても軽く、どこへでも遷せるのです。むかし、周の成王は郊廓の地、この洛陽に九鼎を安置されました。その時の卜占に、鼎がこの地に在ること三十世、七百年とありました。これは天の命ずるところです。周室の徳は衰えたとはいえ、天命はまだ改まつてはおりません。鼎の軽重はまだ問うべきではありません」と。かくて、楚王は帰還した。

コメントの追加 [眉須1]: 中国、甘肅 (かんしゆく) 省北西部にある酒泉 (しゅせん) 市の県。旧称は安西 (あんせい)。

【語釈】

○庸 (よう) 小国。今の湖北竹山県の東。左伝文公十六年参照。

○伐宋 (そうをうつ) 鄭の公子の婦生に命じて宋を伐たせ、甲車四百六十乘、俘三百五十人、

馘百を獲た (左伝宣二年)、とある。

○洛水東辺 (らくすいとうへん) 中国の洛陽という都市の東側、あるいは洛河 (らくが) という川の東側を指す。

○陸渾戎 (りくこんじゅう) もと瓜州の陸渾に住した戎族が洛陽の西南、伊川の周辺に遷り住んで、この地を陸渾と称した。左伝僖公二十二年の条に、「秦晉、陸渾の戎を伊川に遷す」とある。

○觀兵 大軍を陳列し、閱兵して武威を示す。

○王孫滿 周の大夫。周の定王元年に同じ記録がある (周本紀四十一節参照)。

○勞 遠征の勞を問うて見舞う。

○無阻 「勿恃」と同じ (史記唱) と。頼むな。

○折鈞之喙 戟の鋒先の曲がったところの折れた断片。喙は鳥の口ばし。武器の折れはし。

○虞夏 虞の舜帝、夏の禹王。

○九牧 天下を九州に分け、その長官。

○百物而為之備 民に百形の象形をみせて。これが防備をなさしめる。杜預いう。「鬼神百物の形を凶し、民をしてこれを逆へ備へしむ」 (集解)。

○神姦 (しんかん) 神異姦怪。人に害毒を加える神怪。

○載祀 年のこと。殷は三十世、六百余年（史記年表）。

○休明（きゅうめい） 休は美、又は善。

○姦回（かんかい） 姦邪。

○邠（こうじょく） 郊は洛北の山の名。鄂は田畑肥沃の意。洛州。

○卜世・卜年 占筮（せんぜい）でうらなって出た世代年数。

【出典】『新釈漢文大系』史記六「楚世家第十」そせいかだいじふ 明治書院